

やましんかわら版は
山形販売店と読者を結び
ミニコミ誌です

NEW

やましんかわら版

今月もプレゼントや特典がいっぱいです。このマークをお見逃しなく!

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため7月13日(月)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7
(ホームページ) <http://www.yamashinhanbai.jp/>
《メール》 kawaraban@yamashinhanbai.jp
読者お問い合わせ窓口
TEL.023-635-6111 (山形販売内)



今月の
いちばん
情報!!

Girls, be ambitious!! 女子ボクシングの明日を開け!

文武両道の精神で、学びに、そして部活動に励む若者の姿は、いつの時代も輝いていますよね。今号では日本大学山形高校へ、部活動にひたむきなひとりの女子生徒へフォーカスを当て取材してきました。現在同高校3年である菅野涼さんは、同校創立時から続くボクシング部約半世紀の歴史の中で、初となる3人の女子生徒のひとり。彼女のボクシングにかける想いとは?

Q、歴代はじめてボクシング部に入部した女子。なんでこの部活を選んだのですか?

▶私は中学校時代、バレー部に所属していました。なので、高校に入学した時も、やはりバレーを続けようかと見学しに行ったのです。実際、練習風景を見て楽しそうだなとは思いましたが、「自分が今やりたいことと、なんか違うなあ」と違和感を感じ、なにか今までやったことがないことに挑戦したいと思いはじめたときに、ちょうどボクシング部の存在に気づいたので。

その頃、同年年の女子生徒2人が所属していたのを知っていたので(実際はマネージャーとしてだったのですが)、「ボクシングは女の子でもできるスポーツなんだ」と、ジムに見学へ行ってみたのです。実は、ボクシングが好きだったわけでもなく、父と年末にテレビで試合を観るくらいでしたし、また、漫画でちょっとだけ「はじめの一步」を読んだくらいでした。それに中学時代に励んだ団体競技から、いきなりの個人競技への挑戦です。少し考えましたが、練習している先輩たちがとても輝いて見えたので、ゴールデンウィーク明けに入部を決めました。

Q、ボクシング部に入って、カルチャーショックはありましたか?

▶なにかびっくりしたことは? って聞かれると、想像していたよりも自分が変わらなかったことに驚きました。というのも、当初マネージャーとして入部した同期の2人は、マネージャーではなく部員の1人としてボクシングに専念しはじめ、身体

が引き締まったというか、見た目にも分かるくらいに体型が変わっていきましたが、自分はというと、あんまり変わらない。女子ですから気にしますよね。たくさんご飯を食べるからかなあ。

それに2人は運動神経もよく、また体力も着実につきはじめ、彼女たちとの差を埋めるためにも、もっと頑張らなきゃと悶々とする日々でした。仲良しの同期3人ですが、一番近くにいるライバルとして意識しはじめることで、私自身、精神的にはストイックになれたのかも知れません。せっかく初めて集まった女子ボクシング部3人のひとりとして、負けたくはなかったからです。

Q、ボクシングの醍醐味って?

▶県内にある他の高校には女子ボクシングはありません。日大だって、選手としているのは3年生3人と、1年生が2人です。だから県大会もなく、すぐに東北大会へ出場することができます。つまり、すぐに他県で勝ち抜いてきた強豪選手と試合することができるのです。そんな相手に、今まで当たらなかったパンチが当たるようになったりして、顧問の先生から「動きが良くなったなあ」など褒められたら嬉しいですね。辛い練習でも3人でテンション上げあってやり抜いてきた達成感を感じるというか。個人競技ですけど、側で一緒に頑張っている仲間がいたからこそやってこれたのですから。それに、ボクシングが上達する・しないの話ではなく、メンタル的に強くなることで



男子生徒に混ざって、ミット打ちやスパーリング。体力だけではなく、メンタルも鍛えられるそう。

練習の厳しさも、仲間がいるからやり遂げられる。そんな気持ちも伝わってきます。



きます。自分にも厳しくなれたし、「もう限界か?」なんていわれたら、むしろ頑張っちゃいますよね。昨年は芸能人の方が挑戦して女子ボクシングが有名になったけど、それでも入部者はいませんでした。ボクシングは、まだまだ女性とは遠い存在に思われがちです。でも、とても面白い夢中になれるスポーツ。だから私たちが卒業した後も、たくさんの女子生徒に挑戦してもらいたいし、部活も続いてほしい。これからも多くの女性に、ボクシングの楽しさ、面白さを感じてもらいたいですね。



グローブを外し、とても快活な笑顔をみせる菅野涼さん。



日本山形ボクシング部OB会で運営する山形ボクシングクラブ。日本山形ボクシング部生徒はもちろん、一般の方・子どもたちにも解放されています。

お問い合わせ先:090-1372-2114(志田)

日本大学山形高校 ボクシング部
お問い合わせ先:023-641-6631(代表)

山形新聞電子版
オープン
やましんe聞

お届けする「やましんe聞」にはこんな魅力も…スマホ、タブレット、パソコンでどうぞ。

山形新聞ご購入者だけの無料デジタルサービスです。
※法人、団体契約は除く

- いつでもどこでも閲覧できます
- 毎朝5時に紙面配信
- 文字の拡大も思いのまま
- 30日間
- 過去30日間の紙面も確認できます!
- 緊急時の情報収集にも役立ちます!

お申し込みは
やましんイーブン 検索

ご不明の際は 山形新聞社販売局
☎0120-81-8040(9:30~17:30)
山形市旅籠町2-5-12 山形メディアタワー

